

令和5・6年度 第6回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議  
議事要旨

日時 令和7年1月31日（金）午後2時から午後4時まで  
場所 大田区役所本庁舎 902 会議室  
出席者 名和田委員（会長）、倉持委員（副会長）、石垣委員、海老澤委員、  
加藤委員、鴨志田委員、小林委員、竹山委員、豊島委員、野川委員、  
※大島委員、中野委員、広田委員、山本委員欠席（役職・50音順）

## 1 開会

### （1） 会長挨拶

今日はこの期の最後の会になる。今日の議題は、報告書の最終案を確定させて、区長に報告したいということが一つ。もう一つの議題は、この機会に今後の生涯学習の場について、それぞれの期待等を述べていただきたい。どんなことでも構わないので、お考えいただきたい。

### （2） 会議の公開について

推進会議設置要綱第7条に「推進会議は、原則として公開とする。ただし、1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、2 特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本日の会議は公開とする。会議の内容については、議事要旨を作成し、各委員に確認の上、区ホームページに公開する。また、「地域の学びの場のあり方検討報告書」についても確定した際には、区ホームページに公開する。

## 2 議題

### （1） 議題1 「地域の学びの場のあり方検討報告書」について

【会長】

事務局から説明をお願いする。

### 【事務局】

最終案に係る変更点を説明。

### 【会長】

この最終案については、委員の方々から特に意見はなかったため、事務局が図表に関する修正を若干行ったということである。質問や意見があればご発言いただきたい。

### 【委員】

今回の報告書だが、地域の学び、学びについての仕組みづくりや場づくりということについて、とても良くまとめられた。推進会議の運営が区ホームページにとっても詳細に掲載されている。

個人的な意見としては、行政の縦割り、他の部署への繋がりが少し弱い。縦割りの限界があるのでは、と感じた。二つ意見がある。

一つ目は、生涯学習センターに関して、エセナおおたのように複合ビルの一室を借りる方法もあり、複合ビルの中に拠点を作るのが良いのではないかと。複合ビルの一箇所にセンターを設けて、人も情報も集まる、交流の場、オープンスペースができ、広がりを持つようになると良い。地域の活動拠点に職員が赴きフォロー、アドバイスする。そのようにして、全体の方向性を統一し、定期的に見直しを行う。センター自体はそのような形で良いと思う。

二つ目は、活動するには場所が必要。今回の資料では、図書館、文化センターが中心になっているが、実際には、文化の森、区民プラザ、エセナおおた、こらぼ大森など数多くある。それらの施設を一般の方々が使えるようにしてはどうか。区のどの所管の部屋だからという制約があるように感じ、区民としては使いづらい。どの施設も同じように使えるとよい。シニアステーションという場所があるが、そこの部署しか使えないようになっているため、区民の視点からすると、行政の縦割りは関係なく、近くにある施設を活用したい。区民が使いやすいように場所を提供するというのが良いのではないかと。

### 【会長】

今のご意見は非常に貴重で共感するところが多くある。議題の2つ目でご発言いただいてもよい内容で、特に報告書に対する意見ではなかったと思うが、事務局はどうか。

### 【事務局】

一点目の生涯学習センターについては、考え方としては、取り入れられるかと思う。ただ、すぐに設置しようかという計画ではない。実現するにあたっては、そういったことも踏まえて具現化していくような形になるかと思う。

二点目の他施設の活用についてだが、図書館、文化センター、生涯学習センターはモデルケースとして検討した。その他の施設もそれぞれの設置目的を踏まえ、検討していきたい。

### 【会長】

公民館やコミュニティセンターを整備した時代がある。そのような身近な集会機能を果たしている場所が多様化してきており、機能概念としては共通しているため、区民の身近な場所で集まれるようにして欲しいという思いがあると思う。民間企業の会議室を地域に開放しているケースもある。昨日、地域の人が運営している交流拠点ひまわりを見学した。そのような場所も身近に集まれる場所であり、多く存在している。それらを統一的に検索して予約できると利便性が高まる。

### 【委員】

貸し部屋の運営方法についてだが、スマイル大森では5、6階とホールや会議室は別の団体が管理している。センターの共用部分にあたるオープンスペースなどはそれぞれ必要だが、会議室などの貸し部屋は別の一つの団体に管理を依頼してもよいのではないかと思う。

### 【会長】

スマイル大森の類似施設、カムカム新蒲田の設計に関わったが、施設内の様々な機能のコーディネートはハード的に難しい。最近、そのようなコーディネート機能が発揮される方法が出てきており、区民の皆様にも見守っていただきたい。

### 【地域力推進部長】

複合施設を構成する各施設は、それぞれ固有の設置目的を持っており、エセナおおたについては、男女平等推進を目的としている。貸室も基本的にはその目的のために設置しているが、男女平等の範囲を広げて利用することができる。一般の貸室とは性質が異なり、主要用途の所管が特定されているため、男女平

等推進課で管理している。一方、共用部分については、複合施設のメリットを活かし、分野を横断した多様な活用をめざし、指定管理者による管理としている。

所管によって制約があるというご質問だが、エセナおおたの貸室は男女平等推進を直接の目的としない活動にも利用できるよう柔軟に対応しており、施設を幅広く有効に利用いただきたい区の考えを具現化したものであると考えている。

**【会長】**

報告書自体についての意見はいかがか。

**【委員】**

スポーツに関する施設は今回除いたということによろしいか。

**【事務局】**

今回は、図書館、文化センター、生涯学習センターをモデルケースとしている。スポーツ施設は、17ページの図にあるように、文化センターを拠点として周辺施設と深く連携していくイメージで考えている。

**【委員】**

大田区のスポーツ振興計画が概ね形になったため、生涯スポーツというキーワードが入ってもよかったかと思う。

報告書の内容は問題ないと思う。図表の書きぶりについてだが、どの図を指し示すかを文章の後ろに入れておくと良い。もう一つは、6、7ページの図だが、アンケートのサンプル数「n」は「N」とした方がよい。

**【会長】**

一つ目のスポーツについては、スポーツは大きな分野で、今回は主たるモデル分野を絞ったためにあまり出てこなかったということかと思う。

二つ目の図表番号を本文中で言及することについては、工夫させていただく。他にいかがか。

**【委員】**

これまでの議論でナビゲーターというのが重要な論点だったと思うが、最後の「おわりに」のページに言葉が出てこない。言及があった方がよいのではないか。

**【会長】**

「おわりに」内に加えさせていただく。

先ほど言い忘れたが、統計上の書き方で確かに大文字と小文字で書く場合がある。区の区民調査などを確認し、必要があれば修正するという事によろしいか。

(意見・質問なし)

今、いくつか微調整のご提案をいただき、修正方法について確認しながら進めたため、その点を含めて最終報告書をご了承いただくということによろしいか。

(意見・質問なし)

修正した報告書は、皆様に送付する。今日ご了承いただいた最終報告書をもって、会長、副会長で3月27日に区長へ報告する。

他に確認しておくことはあるか。

**【委員】**

報告書を読みたいと思うきっかけは、表紙や裏表紙だと思うので、絵や写真を入れてはいかがか。

**【会長】**

事務局が検討するとして、報告書は印刷して配布するのか、それとも区ホームページ上で公開するのか。

**【事務局】**

区ホームページ上での公開がメインとなる。

**【会長】**

区ホームページ上で見栄えがして、見てみたくなるようなということは、1ページ目ということか。

**【委員】**

そのように思う。

**【会長】**

表紙について、事務局で考えてもらえればと思う。

議題1についてご承いただいた。

## (2) 議題2 地域の学びの場に期待すること

### 【会長】

地域の学びの場に期待することということで、委員の皆様にご発言をお願いしたい。これまでの振り返り、今後の抱負、展望、それぞれの立場でご発言いただければ、この報告書と相まって今後の推進に非常に役立つと思う。特に最初に発言したい方がいなければ順番でよいか。

### 【委員】

専門が生涯スポーツなので、健康づくりと非常に関連がある。高齢者が増えてくると、ロコモ対策を真剣に考える高齢者が非常に増えるので、そのような方に対して情報を的確に出すことが一点。もう一点は、成長期にある子どもたちがどのような食事をどの程度食べたらいいかという情報が錯綜している。そこを地域の学びとして、保護者の方々が新しい情報を取り入れていき、子どもたちが満遍なく栄養を摂れるようにしていただきたい。

### 【委員】

区民として参加させていただいている。地域の学びの場に期待することは、学習者の目線、地域の目線、受け手の目線で学習環境を作っていくこと。

なぜならば、実際に大田区で活動する方から聞いた話だが、三方良しの精神があり、売り手も良く、買い手も良く、それを見ている周りも、地域も良いという考えで、この考えが地域での学びにも生かせるのではないかと思った。

売り手は、ボランティアや学習者が楽しく学ぶ、買い手は、学習者が作ったものを受け、あとは地域全体が良くなる、この三つが揃うと、持続的に地域の学びの場を展開していくことができるのではないかと、その方はおっしゃっていた。

先月から大森で子どもと一緒に工作と居場所づくりという会の代表をやっている。その会は、小学生の居場所づくりと、工作を通じた創造力の育成を目的としている。その支援者である学習者は、私の他に中高生のボランティアで行っている。

その中高生は、色々な考えで参加されているが、その考えを受け入れ、還元できるような学びを作っていかなければ、学びをやめてしまうと感じている。

区には、地域がよくなる活動は多くあるが、学習者側の目線がないと地域に

還元していく人材が離れる、寄りつかなくなるので、学習者の視点で学習環境を作っていくことがとても望ましいと思っている。

**【委員】**

小学校のPTAの代表をしている。就学前の子ども、小学生からシニアまで一緒に学び交流できるような場、イベントがあったら楽しいかと思う。それらを繰り返すことで、その地域の大人と子どもが顔見知りになれると面白い。

地域の方に昔の話をしてもらう機会を考えており、話す側も聞く側も学習になると思う。そのような形で交流として続けられたら良いと思っている。

**【委員】**

中学校PTA連合会から来ている。世代や属性を超えて交流できる場所を整備することは大切なことだと思うが、実際の町会や自治会では、ぽっかりと空いている世代がある。同世代で区切って検討していても良いのではないか。生涯学習を世代、ステージで区切っていくことで興味を持ってくれるようになるのではないか。

多世代と学びたい需要もあると思うが、細かく区切ることで、全体として底上げされるのではないかと思う。

**【委員】**

文化振興協会は、大田区の文化芸術の振興を図るということを目的として設置されている。

SDGsに関しては、文化に直接関連する項目はないが、2030アジェンダ中の誰一人取り残さないということをキーワードに様々な事業を構築している。

特に今後は情報の受発信が大事だと思っている。文化芸術情報のプラットフォームを区と連携して作ることによって、誰でも自分のやりたいことの情報を発信できる、そこを見れば色々な情報を得られるようにしていきたい。

最後に、アプリコ、プラザ、文化の森に来ない人いかにアプローチしていくかが今後大事だと思っている。区、地域団体、民間を含めて連携し、文化芸術の振興、ひいては生涯学習の推進に取り組んでいきたい。

**【委員】**

地域に関心を持ち、また、学びが重要だと思ったのは、会社をリタイアした頃だった。リタイアした当時は地域のことが何もわからなかった。区民大学の受講が学

びのきっかけ、地域を知りたいと思うきっかけとなった。

講座を企画運営する講座にも関わり、企画者及び受講者の立場でいくつもの会を立ち上げ、現在でもかなり残っている。行政の後押しもあり生涯学習世話人会を作り、一緒に講座の企画運営、広報取材記事作成などを行った。ある時、行政から放り出されたことによりメンバーが減ったが、残った人で継続している。

現在は、講座とまち歩きをセットで行うことで観光協会と繋がりができたり、郷土博物館の方に講師になってもらったりすることにより、今までよりも質の高い講座運営をできるようになった。

どういう形で縁を切られたかわからないが、団体としては細々と続いている。せっかく50名いたので、まとまってやっていたら、違う形になったのではないかと思う。

地域活動の前半は、行政と生涯学習を一緒にやっていたが、後半は区を幅広く見るために区民委員に申し込み、まちづくり、環境、男女平等、区民協働、生涯学習などの委員を担当することによって、大田区全体を幅広い視点で見られるようになったことが良かったと思う。

現在、町会の委員や民生委員もするようになった。学びをきっかけに色々なことを教わり、色々な活動ができて感謝している。

いかに学びを社会に貢献していくかが重要だと思うので、活動が少しでも地域のためになればと思っている。

### 【委員】

自治会で色々活動している。親子ほど世代を超えて一緒にやろうと言っても無理がある。無理なことはお互いに認め合いながら、自然体でやっていけばよいと感じている。

自治会では色々な行事をやっており、活発に活動している人ばかりを見ている。文化センターにも勉強をしている人が多く集まっており、そういう人たちの人数がすごいなと思っている。しかし、何もしない人がさらにそれ以上いるということが大変もったいなく、そういう人たちに何かできれば良いと思っている。

地元で老人クラブに関わっているが、圧倒的に女性が多く、男性にもう少しで出てきてほしい。

それぞれの思いを抱えながら交流をすることも大事だと感じた。コロナ禍では書

面会議などがあったが、やはり人と人が顔を合わせて活動していくことがこれから一番大事なのかなと感じている。これからも無理なくできる範囲でやっていきたいと思う。

#### 【委員】

青少対で40年ほど活動している。青少対でやっていることは、全部どこかに関わっていて、外に行って学ばなくても済む。

出張所は部屋も貸してくれ、職員も全面的に協力してくれて、とてもありがたい。青少対の会長を3期ほどやっているが、年齢は関係ないと感じる。ガーデンパーティーをやると年齢を重ねた方も幼稚園の方も出てきてくれる。

青少対をよく覚えておいていただいて、利用していただきたいと思う。

#### 【副会長】

最後に皆様のお話を伺って、大田区ならではのバックグラウンドがあることが報告書に反映されていると思った。

特に印象に残っているのは、報告書を作るプロセスでワークショップに携わり、そこでの議論や意見交換をしたこと。そのエッセンスがこの報告書の中にも入ったと思う。

一つは機能に注目していることが今回の特徴だと思う。すでにある地域の施設でも機能を高めたり、強みを持たせたり、新しくしていくことで活性化していくような要素が報告書に入った。

もう一つは人に関することで、機能を高めていくためには、つなぐ人、ナビゲーター、そういう人に活躍してもらいたい。

新しい活動、場、機能を作っていくには、新しい人に入ってもらわないといけないが、新しい人は勝手がわからないので、これまで活動をしてきた人が伴走してあげると参加しやすくなるのではないかと。報告書にあることをどのように実際に展開していけるかが次のステップだと思う。

大田区出身の方とのやり取りで、住んでいても地域の魅力や施設の多様性に気付かないことはあるのかもしれないと感じ、そのような再発見のプロセスも生涯学習だと思った。

#### 【会長】

私のゼミでは、コミュニティ政策をテーマに掲げている。自分のコミュニティ経

験を書いた文章を求めており、それを見ると、決してコミュニティ嫌いでないことがわかる。それぞれ色々な経験があり、地域にお世話になった過去を持っている。

現在、他自治体の調査に関わっており、アンケート調査の結果を見ると、おおよそ20代前半までは、地域に関心と好感を持っていて、現役世代になると地域への関心が低下し、高齢者になると地域への関心がぐっと向上することが見えてくる。そのため、20代前半くらいまでに地域に関心を持つことが必要ではないか。現役世代も地域に関心がないわけではなく、週末などに活動している方も多くいる。そのような土台が15歳から20代前半くらいまでに築かれるのかなと思う。

私の研究生活を振り返ると、一番勉強してきた分野は都市計画と地域福祉だった。生涯学習はほとんど関わったことも研究したこともなかったが、委員の方々の議論を聞いて、研究し甲斐があると感じている。

この仕事を通じて一番関心を持ったのは、文化センターに巡回している社会教育指導員がどんな思いで、どんな仕事をしているのかということだった。3人の社会教育指導員にグループインタビューをして、とても勉強になった。社会課題を見据えて、どうやったら学びに生かすことができるかをよく考えて活動していると思った。

最後は報告書がまとまり、大変嬉しく思う。

先ほど、若い世代と町会との結びつきが薄いという話題があったが、若い人や現役世代が地域コミュニティに関心がないわけではなく、要は働きかけだと思う。

色々な切り口からコミュニティの輪に入ってきてもらうことが可能ではないか。

大田区では、色々な切り口で地域社会に関わるきっかけが多く用意されている。特に特別出張所は、18所もあり、きめ細かく、職員の質も高い。地域の人と向き合う非常にいい体制があって、区民が活動できるようになっていると感じる。

報告書がまとまったということで、皆様に改めて感謝申し上げたい。

それでは、これで議事を終了し、事務局にお返しする。

### 3 閉会

【地域力推進部長】

活発なご議論に感謝申し上げます。

副会長からは、大田区の施設について若者が持っている意見等を披露いただ

いた。会長からは、出張所の職員に対する好意的な見解をお聞かせいただいた。

皆様の知見や経験をもとに、世代だけでなく属性を超えてご議論いただいたからこそのような成果があったと考えている。

世代を超えての難しさは承知しており、ターゲットを絞った施策の推進は非常に重要で、生涯学習においても同様。しかし、世代を超えた取組みの意義は大きく、課題を解消しながら世代を超えた学びの場の充実を進めて参りたい。

三方良しのお話があったが、そのような視点も大変重要。それぞれの立場でそれぞれの重要なところを認識し合うことで理解が広がり、支援を受けた方が今度は支援する手に回るという参加支援にも繋がるもので、これは地域共生社会の基本とするところと考えている。

大田区は基本構想を具体化する基本計画を策定しているところで、これを実施していくにあたり、今回の報告書を十分に踏まえながら政策を進めていく。また、基本計画とともに策定する実施計画に一部位置付けることも念頭に、計画的に生涯学習の推進を図って参りたい。

生涯学習推進プランにおける課題とされていた学びの場を整理することができ、深く感謝申し上げます。成果物については区長に報告し、最大限活用していくので、引き続きお力添えを賜りたい。2年間の感謝を申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

**【委員】**

質問よろしいか。

**【地域力推進部長】**

どうぞ。

**【委員】**

報告書を今後の活動にどのように繋げるのか。生涯学習に関係する方々を集め、計画書を作って実施にあたる形を考えているのか。

**【地域力推進部長】**

この推進会議は、任期2年のため、同じメンバーでの会議は終了となる。推進会議は続いていくため、また次期メンバーで検討していく。この報告書と今後の活動の関係だが、今回のあり方検討は生涯学習推進プランに基づく取組みであるため、今回の報告を踏まえながらプランの一層の推進を図っていく。加

えて、基本計画及び実施計画との整合・連動も視野に具体的な方策をさらに庁内で検討する。

#### 【事務局】

本日の内容について、追加の意見等があれば、意見書をお送りいただきたい。

報告書については、いただいたご意見を会長、副会長に相談のうえ反映し、確定版とする。確定版は委員の皆様にお送りし、区のホームページ上で公開する。

以上をもって閉会とする。

#### 4 委員からの追加意見

- ・ 報告書や区ホームページに掲載した内容もよく整理されていた。事務局に感謝申し上げる。しかし、組織の壁を越えられなかった点や、報告書の今後の活用が曖昧だった点は残念に思う。次年度以降の活動に繋がることを期待する。
- ・ 地域の学びの場に期待することは、学習支援者、学習者、地域の三方がメリットを実感できる環境を提供することである。地域の学びは社会教育によって下支えされている。推進会議の検討からも生涯学習の推進は社会教育の土台があることで成立すると思われる。社会教育は学校教育外の組織的な学習である。地域の学びの場は誰のものかを考えた際、最初に学習者である区民を想像する。しかし、区民のニーズを支えるのは、学習支援者である。学習支援者が増えていかなければ、生涯学習の理念を区内に広げていくことは難しいと考える。第5回の推進会議にてナビゲーターへの謝礼に関する質問が委員からあったが、この発言は、学習支援者にメリットがないと広がらないことを示唆していると推測している。今年1月から遊びと工作の会で活動を行っており、小学校低学年に向けて居場所づくりと想像力の育成を目的として、地元の中高生と共に取り組んでいる。その際、自身が子どもをもった時にどのような教育をするかを模索することを個人的な目的としている。ボランティアも自身にメリットがあることを認識して参加している。学習支援者がメリットを実感していることで、持続的に組織的な学習を提供できると考えている。また、学習者の学びが地域に還元されることを期待する。地域での学びの成果は、性質上目に見えにくい。地域の学びの場を確保するために、事業の効果、区民の学びの成果を可視化す

ることが求められる。その方法として、学習者が地域課題の解決に学びを活用し地域に還元していく。学習者にとっても学びを活用する過程で、新しい学びに気づき、それを求める。学びが還元され、次の学びに繋がる「知の循環」により、地域の学びの場を広げていくことが可能になると考えられる。